

市長タウンミーティング議事録

報告日：令和4年(2022年)8月2日

- 日時 令和4年7月30日(土)14:00~15:30
- 場所 とどろみの森学園 プレイルーム
- 参加者数 会場参加：7名 オンライン参加：2名
- 対応者 上島市長、健康福祉部 水谷副部長、みどりまちづくり部 村上担当副部長、子ども未来創造局 岡局長、子ども未来創造局 浅井担当部長、市立病院 小林新市立病院整備統括監
- 事務局 市民サービス政策室 7名

【質疑応答概要】

● 里道の確保について

- ・ 里道は、人が通ることにより道として成立している。その通行を禁止しては里道として成り立たないので、使用を禁止しないでほしい。
- ・ スノーピークが管理していると認識しているが、同社がどのくらい市民に還元しているのかが分からなかった。

(市からの回答)

- ・ 止々呂美東西線からの進入路については、18時から翌朝9時までは閉門しており、自動車での通行は出来ず歩行者のみ通行できるようにしている。
- ・ 他の道に関しては、ダムの建設が行われる予定だったことから国の所有となっているが、国土交通省がダム建設を中止したため、維持管理も十分に行われていない。現在は、崖崩れの危険性等もあるので、国から通行を止められている。しかし、市民の方から同様のご意見も頂いているため、市から国へ適切な維持管理をしてほしいと要望している。
- ・ スノーピークに関しては、担当部署に報告しておく。

● 森林整備について

- ・ 止々呂美は原生林ではなく、地域の住民によって作られた森林。人の手が入らなくなると、ダメになってしまう。森林を健全に維持するには、人の手が必要。
- ・ 現在、森林は利用されるだけ利用され、放置されている。山の管理は個人で行うには限界があり、森林経営管理法が国で制定され、森林環境譲与税がある。しかし、箕面市は譲与税を緑推進基金へ使っているだけであり、本来の譲与税の趣旨に当てはまっていない。その部分について、市はどのように考えているのか。
- ・ 止々呂美の山は土砂災害危険地域に指定されているが、災害を未然に防ぐ一番安価な方法は、森林整備（スギ・ヒノキなどの倒木、土砂崩れの

防止)である。こういった森林整備を市が地道に進めていけば、中止々呂美の土砂災害は起きなかったかもしれない。山に住む動物も、食べ物がなくなっているので山から降りてくるが、森林整備を行うことがその対策にもなる。獣害防止に対して、柵だけでは無理がある。

- ・ 以上のことから、森林整備に着手してほしい。この件については要望書も出している。
- ・ 止々呂美は箕面の森林の40%を占めているにも関わらず、人の見えるところ(山麓線等)だけを整備するのはおかしい。もっと市民の意見を聞いていかないといけない。
- ・ 山を守っていき、というのが、どのようにすべきかを明確に示してほしい。根本的な計画で、地元に取り添った計画を考え、市が金を出して境界を決めて誰の土地かを定める、ぐらいの対策はしてほしい。もっと止々呂美に目を向けてほしい。

(市からの回答)

- ・ 森林整備計画の中に止々呂美を位置付けていなかったため、令和4年4月に位置付けを行った。要望書が提出されていることは把握しており、森林環境譲与税の用途についても検討を進めている。今後、山麓保全の取り組みに止々呂美を位置づける方がよいのか、もしくは、森林経営管理制度の活用が止々呂美という地域に馴染むのか、検討を進めていく。また進捗を報告する。
- ・ 災害について、実際に止々呂美地域は被害が大きい。中谷川など、流木や土砂流出による災害が発生しているが、治山・治水対策は大阪府の所管となるため、大阪府に対して砂防堰堤の築造や流木をとめる堰堤の改修を毎年要望している状況。

● 猿被害について

- ・ 猿被害が問題となっている。農家が一生懸命に野菜を作っても、人参、とうもろこし、スイカ等が被害に合う。市職員が、周辺をバイクで回りながら爆竹を鳴らして対策しており、職員として努力はしているのだろうが、農家からはあまり成果が上がっているように見えていない。
- ・ 先日、山口県で猿が窓から家屋へ侵入して人に噛み付いた、というニュースがあった。止々呂美でも、民家へ猿が出没している。これまでは畑や民家で猿と出くわすことはなかったが、最近では、人を恐れない猿がおり、山口県で起こった事件と同様なこと起きるのではないかと心配している。実際、人が近づいても、逃げようとしない。
- ・ 頭数を減らしても猿被害はなくならないため、きちんとした予算をつけて、柵を増やす等、有効な対策を講じ、捕まえてほしい。

(市からの回答)

- ・ 深刻な状況であることは理解したので、今後対応を検討していく。